

# コープ災害ボランティアネットワークニュース

【 95 号】2018年4月

東京都生活協同組合連合会  
コープ災害ボランティア  
ネットワーク幹事会  
TEL: 03-3383-7800

開催報告: 2018年2月17日

## 「ト・イ・レ」を考える



災害時 1 番の困りごと・・・それは、トイレです。避難所で聞いた「今、必要なもの」調査によれば、発災後数日は、トイレが 1 番。避難所で問題になった施設・設備とは？の問いでもトイレと答えた被災者は、70%でした。災害時、水洗トイレは使えない・・・ということに気付き、その観点から NPO 法人トイレ研究所代表理事 加藤篤氏にお話を伺いました。参加者は 60 名と、災害時の「トイレ」問題に対する関心の高さがうかがえました。



【講師紹介】加藤(かとう) 篤(あつし)氏

(特定非営利活動法人日本トイレ研究所 代表理事)

1972 年、愛知県生まれ。まちづくりのシンクタンクを経て、現在、特定非営利活動法人日本トイレ研究所代表理事。野外フェスティバルや山岳地などにおけるトイレ計画づくり、災害時のトイレ・衛生調査の実施、小学校のトイレ空間改善、養護教諭を対象にした研修会、子どもたちにトイレやうんちの大切さを伝える出前授業を展開している。業務経歴に「復興教育支援事業」(文部科学省)・「気仙沼市における在宅被災者のトイレ・衛生環境に関するニーズ調査事業(国土交通省)など広くご活躍され、著作文には「うんちのかみさま」(金の星社絵本)や震災時のトイレ対応についてなど、多岐にわたりご活躍されています。

質問です！

- ◆地震発生後、最初にトイレに行きたいと感じた時間は？
- ◆仮設トイレは何日で届く？
- ◆災害時のトイレ、どうする？

- がまんは出来ない
- 仮設トイレは、すぐには来ない
- 近辺でするのは、不衛生
- 水をさがしても、水もない

### 自宅のトイレに関わる問題点

#### 水洗トイレはシステム

汚水管や雨水管が建物から地面につながっています。

災害時に、トイレ・お風呂・キッチンから水を流したときに、汚水管に亀裂が入っていたら・・・

階上の天井から汚水が落ちたり、地面に染み出した汚水で衛生状態が悪くなったり、環境に悪い状態を作ってしまう。

特にマンションでは、全世帯で意識しなければなりません。



➤クイズ形式で、楽しくトイレや排せつ物の大切さを学びました。

◆絶対に、やってほしいこと！◆

- 1、家族でトイレについて話し合う
- 2、携帯トイレを備える
- 3、災害時には、真っ先に携帯トイレをつける

※集合住宅の場合は、住人みんなで意識する



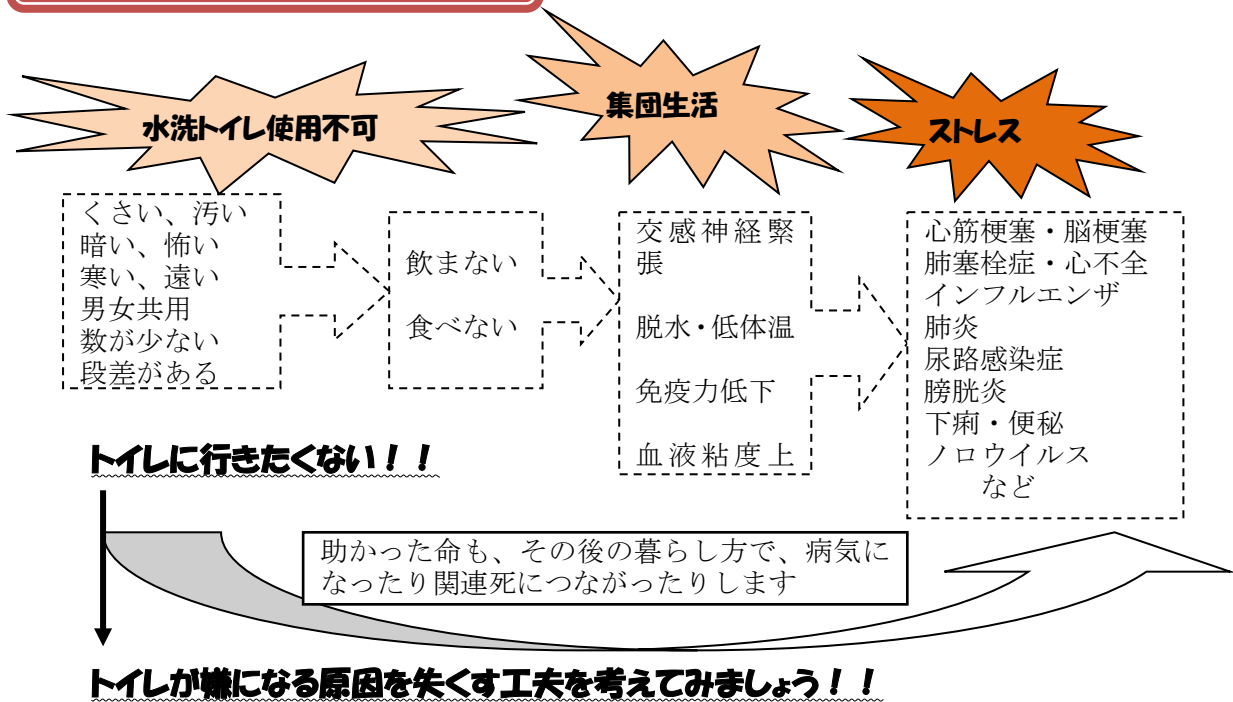
1回あたりの洗浄水量

従来型 10-17ℓ/回

節水型 6-8ℓ/回

最新型 3-5ℓ/回

## 避難所でのトイレに関わる問題



### フチアイデア

- トイレが外にあり、行き着くまで暗い道を通らなければならない。そんな時はガーデンライト（ソーラー）を道に並べて置くだけで、女性や子どもも行きやすくなる。
- トイレについてのルールを避難所開設時に決めておく。



※東京都生協連に備蓄してある災害用トイレを組み立て、使用してみました。水の固まり方などを体験しましたが、種類によって使い方や、固まり方など様々です。備蓄品は一度試しておきましょう。また、商品は、少しずつ改良されていますので備蓄してあるもの見直しも必要です。



タブレットの凝固剤に水を注いでみました。すぐに溶け固まりました。(オカラ様ふわふわ・さらさらの状態)



《アンケートより》

- とても大切な事なのに、真剣にトイレのことを考えたことがありませんでした。今日は考え取り組むきっかけをいただきました。
- 災害時の携帯トイレは備えているが、実際に試してみることの大切さが分かった。
- 絶対にやってほしいことが分かりました。マンションで防災会があるので、一緒に考えたいと思います。
- 具体的で分かり易く、ユーモアを交えてのお話で、大変有意義な良い講座でした。「トイレ」のこと甘く考えていました。
- 生きるのに大切なトイレの話、初めて聞くことが多く驚きの連続だった。早速今日から実践しなければならぬと感じた。

今回のスキルアップ講座も、たくさんの気づきがありました。会員のみなさんも地域や各生協で情報を共有して、減災に取り組んでください。また、学習したいことや体験したいことがありましたら、ぜひお知らせください。

コープ災害ボランティアネットワーク 事務局

## 3月3日交流会報告

### 「あの日を忘れない」

東日本大震災から7年、福島第一原発の事故により、東京に避難されている方、避難されている方を支援している方々からお話しを伺い、思いを寄せ、あの日を忘れないために交流会を開催しました。参加者は、30名でした。

#### 【今のくらしは】

あの日、何が起きたのか？

多くを知らされないまま、故郷から逃げなければならなかったと話された後藤恭子さん（まほろば会）と松崎真希子さん（コスモス会）。

今は、西東京市と板橋区で生活されています。

お二人とも避難先の地元の友人たちと充実した毎日を過ごされていますが、今までのご苦労や、葛藤は私たちには想像できないものです。

お二人には、今まであまりお話されていなかったような当時の様子や、今までの避難生活についていろいろお話いただきました。

避難はされていますが、地域では普通に挨拶をして普通に接してほしいなどの思いを、真摯に受け止めて、これからの支援を考えていきたいと思ひます。



手芸が得意な後藤さんは、テディベアーやブローチなどずてきな小物を作成し、販売しています。売上金は、材料費や楽しい活動にと使われています。

明るく前向きな松崎さんは、避難前にも携わっていた介護のお仕事に就かれています。コスモス会での友人との時間も楽しんで過ごされています。



#### 【寄り添って】

避難者の方々を支援されている団体から2つの団体の活動をそれぞれご報告いただきました。

#### ◆コープ災害ボランティアネットワーク：

近藤宣子さん・藤田はるみさん

中野区社会福祉協議会の寄り添い支援事業で取り組む「来らっせしらさぎ」のお手伝いに毎週参加しているお二人から報告がありました。

2012年から継続されている活動から、たくさんの方々に寄り添い、様々な思いを聞いたり、一緒に笑ったりしてきたこと。

継続する中での課題から子育てママのサロン、「来らっせ」の参加者の得意分野を活かした畑づくりや木工教室の講師などの活動となり、人との繋がりも広がっていったことをお話し頂きました。

お二人にとってもこの場での交流の時間が大切な時となっていることが感じられるお話でした。

#### ◆広域避難者支援連絡会 in 東京：加納佑一さん

全国に避難されている方々のうち、特に東京に避難されている方々を支援している団体が参加している連絡会の活動を報告いただきました。バディ制で各団体が担当団体への連絡などを担っています。

昨年第3回となる「ふれあいフェスティバル」を当事者団体のみなさんと開催し、避難されている方同士が再会する機会となりました。

また、ミーティングを開催し現在の避難状況、現地の状況、被災者の方々のニーズを知り、支援の仕方を共有する場も提供しています。

発災から7年、今後の支援の継続には課題がたくさんあることを知ることが出来ました。

#### 《アンケートより》

▶今も日本全国に避難されている方がたくさんいること、なかなか知られていないというか、気にしていない人が多数だと思います。避難者への支援は、いろいろな団体がずっと続いていることなどをたくさん発信してほしいです。

▶避難者の当事者から直接お話しを聞いたのは衝撃的で「普通に話してほしい」という言葉はとてもうなずける。

▶今日お話しを伺って、おぼろげになってきている7年前の震災のことを改めて考える機会になりました。支援されている方々のお話も伺い今後の日本(特に東京!?)のことを考えるうえでのまちづくり、コミュニティー作りの大切さを思いました。

▶報道では知ることのできない避難者の方々のご苦労、支援者の方々の活動を生の声として伺うことが出来ました。とても貴重な時間でした。

#### ▶昼食を食べながらの交流

短い時間でしたが、みなさん楽しくお話されていました。(いろいろな思いを胸に・・・)

